

2021年8月15日～8月21日 各家庭でのディポーション用テキスト

■権力を行使する訓練（3/4）

私たちは、迫害者に対して忍耐し、恩知らずな者に対しても恩恵を施し、無作法な者にも慈悲深く、私たちが苦しめる人々に対しても柔らかい物腰で対することができる真のやさしさを持っているだろうか。権力を行使する訓練を受け、他人を治める前に自分の心を治めているだろうか。「怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は町を攻め取る者にまさる」（箴言 16：32）。「愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。『復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。』もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです」（ローマ 12：19、20）。

ダビデは何にもまして、神に対して柔らかい心を持っていた。彼は至高者のご臨在に、御力に、ご摂理に対して、敏感な心を持っていた。熊や獅子と戦って勝つことができ、ゴリヤテに勝つことができたのは、自分の手腕や腕力のためでなく、主の御力によるということを知っていた。なぜなら「この戦いは主の戦い」だからである（1サムエル 17：47）。彼は自分の経験から、こう言うことができた。「私のたましいは黙って、ただ神を待ち望む。私の望みは神から来るからだ。神こそ、わが岩。わが救い。わがやぐら。私はゆるがされることはない。私の救いと、私の栄光は、神にかかっている。私の力の岩と避け所は、神のうちにある。民よ。どんなときにも、神に信頼せよ。あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ。神は、われらの避け所である」（詩篇 62：5-8）。

このようなやさしい心は、特にダビデとナバルの物語に見られる。裕福な牧羊者

ナバルの持ち物を、ダビデとその従者たちが守った。その報酬として、彼らはナバルに、ほんのわずかな好意を求めたが、ナバルは彼らをののしった。そこでダビデは、心の中にむらむらとわき上がってくるものを、少しばかり外に示したようである。彼は、しばらくの間、彼を偉大な者にした「やさしさ」を忘れてしまっていた。ナバルの答えに対してダビデの示した反応は、「めいめい自分の剣を身につけよ」ということであった（1サムエル 25：13）。ダビデは怒り、当然ナバルから受けるべき報酬を拒否するようなことをさせてなるものかと決心した。心のやさしいダビデは、忘恩と不法に耐えることができなかった。それは彼にとって、あまりにひどいことだったのである。

ところがそうするうちに、ナバルの妻アビガイルは、この事態を知り、償いをしようとして、ダビデとその従者たちのために急いで食糧を携えて来た。彼女はダビデに、自ら復讐することなく、正しくさばかれる主にゆだねるように訴え、こう言った。「ご主人さまのいのちは、あなたの神、主によって、いのちの袋にしまわれており、……むだに血を流したり、ご主人さま自身で復讐されたりしたことが、あなたのつまずきとなり、ご主人さまの心の妨げとなりませんように」（29、31 節）。確かにダビデには彼女の嘆願に耳を傾ける必要は少しもなかった。しかし彼は、彼女のことばの中に、至高者の叱責を認めた。彼は心からへりくだり、穏やかに答えて言った。「きょう、あなたを私に合わせるために送ってくださったイスラエルの神、主がほめたたえられますように。あなたの判断が、ほめたたえられるように。また、きょう、私が血を流す罪を犯し、私自身の手で復讐しようとしたのをやめさせたあなたに、誉れがあるように」（32、33 節）。

【V・レイモンド・エドマン 人生の訓練 第二十八章「権力を行使する訓練」より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。